

# 年間●●名を育成できる学校のチェック表

判定 高い：A ～ 低い：E

項目	チェック内容	(目視・書面等で確認)	チェックポイント	現状	●●名送るための改善点	改善期日	判定
授業時間	何時から授業をスタート	学校にて、授業を観察	●●名育成するために必要な時間が確保		教育時間数を増やし、生徒の勉強できる時間数を確保する		C
学校の広さ	教室の広さ	1 教室 イスのみ	●●名育成するために必要な教室数・大きさを確保		少なくとも4教室×4コマ イスと机一体型ではなく別々にする		C
学校の場所	学生が集まりやすい環境かどうか	他校、交通手段が容易?	他校との競合、集まりやすい環境		他校との競合が無い場所を選ぶ		C
ライセンス	学校経営の登記等	オリジナル証書確認	名義貸しで行われていないか確認		問題なし		A
学生募集の広告	広告方法	聞き取り・書面確認	広告の種類・頻度・金額 営業スタッフの数、担当エリア、直近実績の有無		広告の頻度、方法を考えて実施		E
生徒獲得の事業計画	安定的な生徒の確保	書面のみ	学生確保のための広告・スタッフ・教師・教室等の確保と予算等が計画されているか		スタッフ全員で考え、書面化することで、具体性が出る		E
他校との差別化	他校との差別化	聞き取り・実測確認	どのような差別化で学生を集めているか		差別化できる内容で訴求し、学生数を増やす		E
学校スタッフ	学校の職員数 (全員)	実測確認	●●名育成するために必要なスタッフ		校長含めて最低5名		D
	教師の数	実測確認	●●名育成するための人数が確保		少なくとも4名必要		C
	各教師のレベル・日本語検定能力証明	会話力、合格証確認	N2レベル等の会話力の確認		確実にN3の取得		D
	指導の方法	聞き取り、実測確認	教材使用の有無、教師の一方的な指導の有無		入校前に契約書を交わす		D
	出席・テスト等の実施	記録簿等の目視確認	確実な育成に必要な日々のテスト実施、準備ができていないか		確実な実施と対応職員の確保		D
	教師一人当たりの生徒数	実測確認と記録簿から確認	●●名育成できる人数に合致しているか。		20名程度の学生を一人の教師		C
	入校時の学生と学校の契約	書面にて確認	指導責任と一定期間で育成する記載有無		教師と学生に責任を持たせ、しっかりと育成につなげる		E
	クラス数	記録簿等の目視確認	●●名育成できる人数に合致しているか。		時間を増やすか、教室を増やして全体のクラス数を増やす		D
	各スタッフの仕事内容	聞き取り・書面での確認	各スタッフの仕事内容の明確化と責任の有無		スタッフが少なく、仕事内容も決まっていないので、書面にて明確化する		E
	タイプできる人	実際にタイプさせる	日本語、ネパール語でのタイプスピードをチェック		練習をしてタイピングができるようになる		C
生徒	学生数・出身地等	記録簿等の目視確認	どの地域の学生が多いか、民族等を確認		現状の20倍が必要		C
	学生数	記録簿等の目視確認	入校学生数と実際に来ている学生の数		登録数と実際に学校に来ている生徒数に乖離がある		D
	日本へ行くための目的	聞き取り	日本へ行くための正直な目的に確認		しっかりと教師と話し合いをして、強い意識を持たせること		E
指導教本	指導教本	教本の確認	指導教本を確認・音響材等含む		漢字教本をもっと活用する		B
	指導方法	実測確認	日本での教育方法と比べて判断		会話中心のレッスン (生徒にしゃべらす)		C

教育指導法・ 育成達成	入校後何カ月でN5.N4級取得	取得学生からの聞き取りと出席簿確認	確実に実力が伸びているか、出席簿を見ながら 会話力チェック		カリキュラムを作成し、実施していく		E
	会話能力	通常会話と面接会話の実施	自身で考えた答えを話せるか？ 質問の答えが 長い答え（理由を述べる）ができるかどうか		生徒に答えを教えず、考えさせるように指導		C
	出席・欠席・早退の確認	出席簿等で確認	出席の確認時間（授業前・授業終了後）		クラスの始まる前に出席を取り、欠席や遅刻につい ても、連絡をするように指導すること		C
	宿題の有無	学生より聞き取りと目視確認	確実な日本語力を身につけるために、実施の 有無。チェックする人、宿題の頻度の確認		毎日宿題を出し、確実に知識を身につけるように する。問題のプリントを複数用意し、復習させる		C
	宿題チェックするスタッフの有無	聞き取り	効率的なチェックにより、教師の仕事時間を教 育のみに注げる		先生の負担を減らし、事務方のスタッフで行えるよ うにする、成績も付けやすい形にする		E
	出席と成績を掲示の有無	掲示物の有無	学生にも現状を理解させ、勉強意欲を高める		学生に今の状況を知らせる		E
	学力不足の学生対応	聞き取り、書面等	●●名を計画通りに育成するためどのように対 応しているか？		学力不足の学生に対して、復習の定着化、下の クラスへの移動を促す		E
	教師にも指導責任を持たせているか	学校と教師の契約書	教えるだけの指導がしっかりと理解するまで教え る指導かを見極める		全教師に責任と義務を明確し、生徒任せの指導 にしない。		E
	指導責任が果たせなかった場合の対応	学校と教師の契約書	責任を持たせることで、計画的な育成が可能に なる。		責任をしっかりと理解させる		E
	各ピザの内容の周知	学生への聞き取り、書面の有無	学生がしっかりとピザの内容、就労ルール、費用 等を正しく理解しているか。		定期的なオリエンテーションを行い、ピザ内容、その 他を正しく伝えて、それに応じた目標を立てる		E
	教育プログラム	書面で確認	日々の指導内容と月ごとの指導内容が決まら れていて、実施できているか		教育の基本である日々のプログラムを作り、遅延 なく、計画的に行えるシステムを構築		E
過去の申請状況 チェック方法・内容	書面で確認	不誠実な学生の排除、誰がチェックを行っている のか？		不許可になった学生の対応となせピザが下りなかつ たのかを正しく理解させる		D	

Wi-Fi	日本からのチェック	Wifi契約書で確認	日本との通信がしっかりと行えるかどうか		時間帯による通信速度の確認を行う		B
停電対策	予備電等の確認	目視確認	予備電源、燃料の有無、操作する人の有無		自家発電準備		B
パンフレット	パンフレット	現物確認	学生に分かりやすく、誇大広告になっていないか？		訴求効果を高めるため、デザイン性、キャッチコピーの考察が必要		B
学生育成準備	育成方法	教育プログラム等の書面	どのように指導するか書面で確認		日々の指導プログラムを作り、遅延なく、計画的に行えるシステムを構築		E
	N4級取得期間	育成プログラム等の書面	確実に育成が行える根拠が示されている書面		日々の指導プログラムを作り、遅延なく、計画的に行えるシステムを構築		E
ビジネスプラン	ビジネスプランの有無	書面	総合的に教育をビジネスするうえで必要な内容を書面で確認		すべてのスタッフと考え、書面化することからスタートすべきである		E
総合評価	現状、適任校ではない。ビジネスをしたい気持ちが前面に表れているが、それを実現するために必要な内容がまったく準備されていない。見切り発車することで、計画倒れ、日本側での損失が非常に大きいと予測できるため、準備が整うまで対応を停止すべきである。改善期限を設けることで、学校の対応能力を見極め、判断したい。						<b>E</b>